

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

|  |        |                    |                   |
|--|--------|--------------------|-------------------|
| 課題番号   | 251008 | 事業期間               | 平成 25 年度～平成 29 年度 |
| 取組の名称  |        | 団体名称               | 代表者名<br>(職名・氏名)   |
| 日本人類遺伝学会公式論文誌の姉妹誌を創刊し、2誌それぞれの役割に沿って総合的に学会の学術情報発信力を高めるための取り組み |        | 一般社団法人<br>日本人類遺伝学会 | 編集委員会委員長<br>徳永 勝士 |
| 学術刊行物の名称   |        |                    | (略称)              |
| Journal of Human Genetics /<br>Human Genome Variation        |        |                    | JHG / HGV         |

【平成 27 年度 中間評価結果】

| 評価   | 評価基準                                       |
|--|--|
| A+   | 当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。       |
| ○ A  | 当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。               |
| A-   | 当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。          |
| B  | 今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。 |
| C  | 今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。              |
| (評価意見)   |  |
| <p>姉妹誌の創刊は達成し、PubMed への収録とインパクトファクターの獲得に向けての努力が進行中であり、順調に進展していると判断される。また、埋もれていた症例の出版とデータベース化、JHG と HGV の共通編集委員会による投稿論文の移行などは評価できる。</p> <p>一方で、論文出版数は目標に達しておらず、具体的な目標達成度が不明確であり、出版社への依存が高い。助成終了後を考えて運営基盤を整えるなど、一層の自助努力が必要である。</p> |  |